

# 令和7年度「政策評価の理念と現実に関する調査研究」概要版

## 本調査研究の意義

- 1996年に三重県で始まった事務事業評価制度は、NPMの流れに乗り全国の自治体へ広がり、2001年には政策評価法が施行、国においても政策評価が導入された。
- しかし、導入から20年以上が経過し、現場では職員が膨大で実効性に乏しい作業に追われており、「評価のための評価」や「評価疲れ」などの課題を抱えていることも長年指摘されている。
- 本調査研究は、研究者と実務家との対話の積み重ね、及び自治体への実態調査結果の分析により、課題解決の糸口を「処方箋」として提示することを目的としている。

## 各章

### ◆ 序章 「政策評価の理念と現実～評価疲れに悩む自治体への処方箋～」 研究会概要

早稲田大学政治経済学術院 教授 稲継 裕昭 (委員長)

- 1 調査研究の背景・目的
- 2 調査研究の流れ

### ◆ 第1章 政策評価の日本的パラダイム—マクロとミクロから考える—

京都橋大学 経済学部 教授 竹内 直人

はじめに：本章の目的と視点

- 1 マクロの視点：地方自治における本人-代理人関係の変化と政策評価
- 2 ミクロの視点：日本的組織と政策評価

おわりに

### ◆ 第2章 総合計画の業績測定が生む職員意識の乖離

広島修道大学 国際コミュニティ学部 准教授 山中 雄次

はじめに

- 1 総合計画の業績測定
- 2 PSM実証研究からの考察
- 3 自治体職員を前向きにする“役立つ”評価に向けて

おわりに

### ◆ 第3章 自治体政策評価の30年 —評価ロックインへの処方箋—

明治大学 公共政策大学院 ガバナンス研究科 専任教授 西出 順郎

はじめに

- 1 自治体政策評価の過去
- 2 自治体政策評価の現在
- 3 評価ロックインの理由
- 4 現行システムへの処方箋

おわりに

### ◆ 第4章 JICAの事業評価から地方自治体の政策評価を考える

広島市立大学 国際学部 教授 佐藤 敦郎

はじめに

- 1 JICAの事業評価の概要
- 2 JICAによる事業評価の見直し
- 3 JICAのインパクト評価手法の考え方の応用
- 4 なぜプロジェクトは長く続くのか

おわりに

### ◆ 第5章 自治体における持続可能な評価について —千葉市における評価制度の変遷を通じて—

内閣府地方分権改革推進室 参事官 川口 真友美

はじめに

- 1 自治体における評価をめぐる課題
- 2 千葉市における評価制度
- 3 国における取組
- 4 見直しの方向性

おわりに

### ◆ 第6章 富山県における政策評価の振り返りと主観的指標の活用

富山県 地方創生局長 滑川 哲宏

はじめに

- 1 政策評価制度導入時の背景と考察
- 2 政策評価の根源的な課題—指標と運用
- 3 「ウェルビーイング先進地域」の実現に向けた富山県の新たな挑戦

おわりに

### ◆ 第7章 瀬戸内市の政策評価 ～自治体「統合報告書」への挑戦～

瀬戸内市 総合政策部 企画振興課 課長補佐 仁科 佳菜子

はじめに

- 1 瀬戸内市における政策評価の課題と統合報告書作成への着手
- 2 瀬戸内市統合報告書の概要
- 3 統合報告書としての課題と未来への展望

おわりに

### ◆ 第8章 企業の成功/挫折事例から学ぶ政策評価の戦略的活用

マカイラ株式会社 シニアコンサルタント マカイラ公共政策研究所研究員 小野寺 晃彦

はじめに

- 1 企業の業績評価（成功事例と挫折事例）
- 2 企業と国・地方自治体の評価についての比較
- 3 提言：企業の成功/挫折事例から学ぶ政策評価の戦略的活用

おわりに

### ◆ 終章 日本の政策評価 —悪循環を断ち切ってより良い政策形成へ

早稲田大学政治経済学術院 教授 稲継 裕昭 (委員長)

- 1 自治体政策評価が直面している「現実」
- 2 日本型政策評価のパラダイム転換
- 3 実効性を高めるための具体的な「処方箋」
- 4 デジタル活用と「公共価値」の可視化
- 5 これからの自治体マネジメントの展望